

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

事業名 世界農業遺産国際支援推進費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部里川振興課里川振興係 電話番号：058-272-1111(内2911)

E-mail：c11428@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 10,758 千円 (前年度予算額：10,758 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	10,758	820	0	0	0	0	0	0	9,938
要求額	10,758	820	0	0	0	0	0	0	9,938
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

・清流長良川の鮎を通じて、人の生活、水環境、漁業資源が密接にかかわる岐阜県ならではの里川全体のシステム「長良川システム」が2015年12月に「清流長良川の鮎」として世界農業遺産に認定された。

・この「長良川システム」の持続的な発展に向け、海外に向けて情報発信する必要があるとともに、日中韓の認定地域等で組織される「東アジア農業遺産学会(ERAHS)」が令和5年度に日本で開催され、日本事務局から岐阜県での開催が要望されていることから、実施に向けた準備等が必要である。

(2) 事業内容

○東アジア農業遺産学会(ERAHS) (7,330千円)

・ERAHSやFAO等が主催する農業遺産関係国際会議等に参加し、事例発表やPRを行う。ERAHSについては令和5年度日本開催に向けた事前調査や企画作成を実施する。

○海外における世界農業遺産「清流長良川の鮎」PR (3,340千円)

・農畜水産物の海外トップセールスと併せて、世界農業遺産「清流長良川の鮎」をPRする。

○海外への世界農業遺産のPR (88千円)

・「GIAHS鮎の日」に、県民と共に世界農業遺産の活用や国際貢献について考える講座を開催する。

(3) 県負担・補助率の考え方

世界農業遺産「清流長良川の鮎」の認定自治体として、県が主体となって取り組むべき事業であり、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	145	講師謝金
旅費	3,453	業務旅費、講師旅費
需用費	296	消耗品等
役務費	264	通信運搬費
委託料	6,395	ERAHS事前調査、ERAHS役員会等
使用料	25	携帯レンタル
負担金	180	ERAHS参加負担金
合計	10,758	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略
 - 3 地域にあふれる魅力と活力づくり (1) 地域の魅力の創造・伝承・発信
 - ②美しく豊かな環境の保全・継承
- ぎふ農業・農村基本計画 (R3～R7)
 - 4 地域資源を活かした農村づくり
 - ③世界農業遺産「清流長良川の鮎」の保全・活用・継承と持続的発展

(2) 国・他県の状況

国内では、これまでに11地域が世界農業遺産の認定を受けており、農林水産省及び各地域が連携して、その保全・活用・継承に向けて取り組んでいる。

(3) 後年度の財政負担

世界農業遺産認定後は、「世界農業遺産保全計画（アクションプラン）」に基づき、「長良川システム」の保全・活用・継承に向けた各種取組みを実施する必要がある。
平成29年度の国専門家会議によるモニタリングの結果を受けて、平成31年4月に改訂した第2期アクションプラン（計画期間：2019～2023年）の下、県として5年間の取組みが求められる。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

世界農業遺産「清流長良川の鮎」の構成要素である鮎をはじめとした地域の農林水産物、加工品、伝統工芸品等を海外に向けて情報発信し、国内外の認定地域が一体となって、世界農業遺産の持続的発展に取り組む。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H27)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
①東アジア農業遺産学会でのPRの実施	0	0	0 (実績)	1	1	0%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	下記事業を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止 <ul style="list-style-type: none"> ・中国慶元県で開催の東アジア農業遺産学会（ERAHS）への参加 ・内水面漁業研修センターの公開講座 ・海外からの視察対応
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	「清流長良川の鮎」の認知度は徐々に向上してきており、また民間団体の活動も活発化してきていることから、この流れを継続し、さらなる「長良川システム」の持続的発展に向けて、国内外の認定地域が一体となって取り組む必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価)	新型コロナウイルスの影響により、東アジア農業遺産学会(ERAHS)でのPRが出来なかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	県、関係市、関係団体を構成員とする協議会を設置することで、一体的な事業の実施が可能であり効率化が図られている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 「長良川システム」の保全・活用・継承に向けた取組みを、県民、関係団体、行政が連携した取組みとして展開していく必要がある。また、行政主導ではなく県民主導の取組みへと移行していくことが課題となる。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 第2期アクションプランを流域の関係者等が理解し、幅広いステークホルダーの自発的な関与を促しながら、「長良川システム」の保全・活用・継承に向けた活動を推進する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	
補助事業者 (団体)	(理由)
補助事業の概要	(目的) (内容)
補助率・補助単価等	定額・定率・その他 (例: 人件費相当額) (内容) (理由)
補助効果	
終期の設定	終期〇〇年度 (理由)

(事業目標)

・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

補助金交付実績 (単位: 千円)	H30年度	R元年度	R2年度

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
--